

健康で自立的なコミュニティづくりのためのマルチアプローチ

アラハバード（ウッタール・プラデシュ州南東部）の農村で、アーシャ＝アジアの農民と歩む会（ASHA）と JICA は、教育、情報の提供、意識の向上による、住民の生活の変革に取り組んでいます。ASHA は、サム・ヒッキンボトム農工科学大学（旧名：アラハバード農業大学）継続教育学部（MSCNE）をパートナーとして、7 年間にわたり農村開発活動を行っています。

Chota Kanjasa 村は、ヤムナ川のほとりの緑豊かな小さな村です。アラハバード市内の喧騒から離れた場所に位置する村は、主に漁師や土地を持たない農業労働者が住んでいます。継続教育学部長兼 ASHA のプロジェクトマネージャーである三浦照男先生に、MSCNE/ASHA の活動の中心となる、小学校が入っている小さな建物に案内してもらいました。

建物では様々な活動が行われていました。一つの女性グループはマットレスに座り登録を行っており、別のグループは、種を植える際に雨風や動物から種を守る方法のデモンストラーションをしています。ある女性は、子どもが騒ぐ中、他の女性に大声で話しかけ、年配の女性たちはおしゃべりに夢中といった状況です。



緑黄色野菜の効能を説明する角田氏（左端）（写真：OWSA 提供）

「女性たちは家庭菜園のワークショップに参加しています。ほとんどの人は、土地なしの農業労働者や先住民族です。私たちは、狭くても安全な場所に置くことのできるように、飼料用のビニールバッグでの野菜の栽培法を教えています。今日のワークショップでは、地場で育つ野菜の効能の説明をします。」と、MSCNE の健康コーディネーターの Manmeet さんは説明します。「食品の栄養価値についての認識がこの地域にはほとんどないことが分かりました。食べるのはお腹を満たすためであり、健康のためではありません。ここでの平均的な食事は、芋、米、小麦です。必須栄養素の不足は多くの病気の蔓延につながっています。多くの子どもは慢性的な栄養不良に苦しんでいます。」と彼女は続ける。

ASHA の健康専門家の三浦孝子さんは、「低い識字率とコミュニティの男性支配的な習慣により、女性と女兒は取り残され弱い立場にあります。意思決定層である年長者や夫が、女性が健康的な習慣を取り入れることを難しくしています。」と説明します。

健康習慣についての意識不足や、迷信によって引き起こされる問題について、MSCNE/ASHA は熱心に取り組まなければなりません。例えば、妊婦が妊娠状況を確認することは不吉であると考えられている(*)ため、胎児検診に行こうとする女性はほとんどいませんでした。また、母乳育児の良さはほとんど理解されていませんでした。赤ん坊の健康に縁起が悪いと考えて、新生児の体重を定期的に測ることをためらっていました。

(*)村では、妊娠から出産までの間の検診や、新生児の検診の習慣がないため、チェックを受けることは、妊婦や新生児が不健康である＝不吉であると考えられる背景がある。

MSCNE/ASHA チームは、選択肢がないことが健康指標が低い理由の大きな原因であると理解しました。健康状態を改善する最良の方法は、知識と情報の共有を中心としつつ、教育や雇用のような他の問題にも取り組む、包括的なアプローチであると思われます。

この目標を達成するため、ASHA は、JICA の支援を得て、アラハバードの 6 村で 2 つのプログラムを実施しています。「農村栄養と母子保健改善プロジェクト」は、農村ヘルスボランティア育成と健康セミナーの定期開催を通じて、母親と子どもの栄養不良の問題に取り組む事業です。



識字教室にて (Bargohna 村) (写真 : OWSA 提供)

「小規模農民の生活改善のための実践的農民教育プロジェクト」は、ASHA が独自に運営する学校と、ノン・フォーマル教育事業とを合わせて行っています。これらにより、マイクロファイナンス、自助グループ (Self-Help Group : SHG) 活動、畜産と食品加工の訓練を通じ、所得創出、生計機会を提供しています。「我々の目的は、地元住民、特に女性と子どもに、健康で安定した生活のための情報やアイデアを提供することです。」と三浦先生は言います。

乳幼児の健康への関心を高める

ASHA が日本の味の素と協力して 2008 年に開始した母子保健改善プロジェクトは、2010 年に JICA の支援により新たなフェーズに入りました。

イニシアティブの中で、農村ヘルスボランティアは、健康問題に関する意識向上とそのフォローアップに重要な役割を果たしています。ボランティアは、セミナーやワークショ

ップを定期的に関き、対象のコミュニティに継続的にメッセージを伝えています。「女性の健康の改善には、教育により身の回りで起こっていることを意識させることが重要です。」と三浦先生は話します。

現在、13 人の農村ヘルスボランティアが巡回して、妊婦と新生児について助言と検診を行っています。

「MSCNE/ASHA に選ばれて数年前に農村ヘルスボランティアになる前は、村の学校で教えていました。現在 3 つの村を担当しています。定期的に村を訪問し、母乳育児と健康に良い食品の効能について、女性や、時にはその家族に助言しています。」と Phoolkali さんは話します。



Kanjasa 村での Phoolkali さん（左端）と農村ヘルスボランティア(写真：OWSA 提供)

農村ヘルスボランティアの訓練と彼らの母子保健知識の向上に、ねらいが置かれています。彼らは、胎児の検診と、妊娠・出産・出産後の期間のストレスの兆候の重要性について教えています。「200 人以上の子どもがモニターされています。」と三浦孝子さんは話します。「妊娠時に母子手帳を配布し、新生児の身長と体重を 3 カ月ごとに記録します。母子手帳は子どもの成長とワクチン接種の情報を提供し、また、特別のアドバイスを記入する欄もあります。」と Phoolkali さんは加えます。

新生児の成長が思わしくない記録があれば、ボランティアは母親に食事と母乳育児についてアドバイスをを行い、定期的に訪問して成長の記録を続けます。「家族にどのような種類の問題があり、なぜ子どもが適切な栄養を摂取できないのか、その理由を理解しようと努めています。」と Kanjasa 村出身ボランティアの Pushpa Devi さんは説明します。「最初は、女性たちは会合へは出席せず、私たちの活動が有効であると信じていませんでした。徐々に実際の結果を見て、女性たちは我々に真剣に話すようになりました。」と Manmeet さんは言います。

「挑戦はまだ続きます。私たちはより多くの人々に活動を届けたいと思っていますが、現状では不十分です。また、人々の態度に変化をもたらし、それが完全に定着するには時間がかかります。」と三浦先生は言います。

安心の種をまく

「小規模農民生活改善のための実用的農民教育プロジェクト」は、2009年4月に開始され、地元農民が収入創出の機会を得るよう、農業、畜産、養鶏、食品加工を統合的、持続的に行う訓練を行っています。



Kanjasa 村での Mishra さんによる家庭菜園ワークショップ(写真：OWSA 提供)

「住民のほとんどは貧困層なので、収入を創出し、健康なライフスタイルを促すような、手の届く持続的な農業にねらいを置いています。」と三浦先生は説明します。生産物は、組合を通じて販売されます。

「数年前までは仕事がありませんでした。MSCNE/ASHA の畜産プログラムのことを聞いて、訓練に参加しました。今は養鶏農家です。家族の必要なものを満たす収入が今はあります。」と、Rajendra Prasad さんは、鶏の世話をしながら話します。

技術的な訓練とともに、MSCNE/ASHA は、住民の資金管理能力の向上が必須だと考えています。MSCNE/ASHA によって形成された自助グループ (SHG) は、重要な役割を果たしています。SHG は、マイクロファイナンスを通じて、農民が手の届く利率の融資で急な支出をまかなえるようにしています。活発な SHG メンバーは、若者グループと一緒に村々へ行き、村人がマイクロファイナンスを利用するよう促しています。資金調達や貯金の機会を提供することで、コミュニティにおける女性の地位を高めることに貢献しています。



Bargohna 村での SHG と青年クラブメンバーの訓練(写真：OWSA 提供)

「SHG はこの地区ではなじみがなかったもので、初めは女性たちは仕組みをよく理解していませんでした。ASHA のファシリテーターは、コミュニティで顔の広い、グループのリーダー

のような女性を活動に巻き込んで、SHG についての説明を行いました。いったん SHG の活動について理解すると、他の女性が参加するように助けてくれました。」と、三浦先生は説明します。

「それぞれの SHG には 10~12 人のメンバーがいます。女性たちは、収入訓練活動の訓練を受けたり、グループの会長、副会長、会計責任者の役割を果たすことで、だんだんと自信を持ち始めます。人によっては、MSCNE/ASHA の活動を広める役割を果たしてくれます。」とマイクロファイナンスのコーディネーターの Namita さんは言います。Namita さんは、40 以上の SHG の形成に携わりました。

「私は融資を受けて、農業ビジネスの拡大に投資しました。良い土を買うことができ、それで得た利益を SHG の口座に預けました。」と、Bargohana 村の SHG メンバーは自信を持って話します。

信頼の絆を築く

MSCNE/ASHA は、村と信頼関係を共有しています。住民は、コーディネーターのアドバイスに従うだけでなく、さらに学ぼうとしています。それぞれの家族が少なくとも一つの活動に参加しています。これまでに多くの良い変化がありました」と Mishra さんは話します。



MSCNE の教員、スタッフ、学生(写真：OWSA 提供)

多くの地元住民は、収入が増えたと話します。識字率も改善し、多くの女生徒が学校に通学するようになりました。女性は、自分だけでなく、家族が安心できる生活を送るための手段を持つようになっています。

現在、次のフェーズの活動が計画されています。ASHA（ヒンディー語で「希望」）には、これまでの教訓を梃子にして、貧困農民の生活に変化をもたらすことができるという希望があります。そのためには、適切な手段を用い、変化への動機付けを提供することが重要です。